

王者の夏へ。

第24回全日本小学生ソフトボール大会熊本県予選会

前人未到の大会三連覇。熊本最強の23人—



Ozaka junior softball club

【後列】
 山地咲希(5年)、坂田大士(6年)、古谷泰佑(3年)、枇榔夕芽(5年)、可児優奈(4年)、渡邊華未(5年)
 【中列】
 村田翔馬(3年)、渡邊海心(3年)、伊勢一喜(3年)、福嶋悠一郎(4年)、山地凌平(5年)、本田大和(3年)、高崎愛梨(3年)、福嶋厚志郎(2年)、沢木奏凜(2年)
 【前列】
 城本祐海(2年)、本田貴大(6年)、椋田太(6年)、峰孝太郎(6年)、山地雄晨(6年)、古谷篤史(6年)、井芹伶斗(6年)、甲斐温人(1年)

初戦から火を噴いた
 自慢の重量打線

12日の予選第1試合。小坂ジュニアは、松合小ジュニア(宇城市)と対戦した。
 後攻の小坂ジュニアは初回、自慢の重量打線がいきなり火を噴く。1番坂田大士が左翼線への二塁打を皮切りに、2番山地咲希が左前二塁打、3番山地雄晨が中前二塁打と上位打線がつながり、打者7人で一挙3点を奪う。
 2回には一死満塁のチャンスに、3番山地雄晨が左前に

弾き返し2点を、さらに5番本田貴大が左前打で2点を追加する猛攻で4点を加え、序盤に試合を決める。

守つては、エース山地雄晨がストリートとライズボールを中心とした強気のピッチングで松合小打線につける隙を与えない。3回には3者三振に討ち取る庄巻の投球。味方の堅守にも助けられて、8奪三振を奪い無安打無失点の完全試合をいきなり達成する。小坂ジュニアは12-0で圧勝し、三連覇へ向けて幸先のいいスタートを切った。

1 2回裏、長距離砲の一角を担う5番本田貴大が振り抜いた打球は左翼線を痛烈に破る二塁打で2人が生還しリードを7点に広げる(松合小戦) / 2 3回裏、代打の伊勢一喜が右中間へダメ押しとなる3点本塁打を放ちホームベース上で会心のガッツポーズ。3年生ながら非凡なバッティングセンスと強肩を兼ね備えた期待の逸材といえる(松合小戦)

1 試合目 (4回コールド)

チーム	1	2	3	4	5	計
松合小	0	0	0	0		0
小坂Jr	3	4	0	5		12

▷奪三振(8) ▷被安打(0)
 ▷本塁打 伊勢一喜
 ▷二塁打 坂田大士、山地咲希、山地雄晨、本田貴大、井芹伶斗、椋田太

2 試合目

チーム	1	2	3	4	5	計
小坂Jr	0	0	0	0	1	1
みかわD	0	0	0	0	0	0

▷奪三振(10) ▷被安打(1)
 ▷二塁打 椋田太

予選R

1点をめぐる攻防
 最終回到劇的なドラマ

気温が30℃近くに達した予選第2試合の対戦相手は、みかわDクラブ(和水町)。
 先攻の小坂ジュニアは2回以降、毎回出塁するが相手守備の好守に阻まれ、なかなか得点できない。一方、守備ではエース山地雄晨が相手打線を力でねじ伏せ二塁を踏ませない一進一退の攻防。4回を終えて、互いのスコアボードに0が並ぶ緊迫したゲーム。
 そして迎えた最終回。ドラマはここからはじまる。一死から代打の8番伊勢一喜が弾いた打球が相手守備のミス誘い一気に三塁を落し、監督の起用に見事応える。9番古谷篤史はボールに必死でくらくらいつき内野ゴロの間に伊勢が好判断の走塁で生還。ついに待望の先制点をもぎとり均衡が破れる。静寂を破るかのようには沸き立つベンチと、歓喜で盛り上がる保護者の大応援団。結局この1点が決勝点となり、1-0で劇的な勝利を呼び込む。結果、予選リーグを2戦2勝とし翌日の決勝トーナメント進出を決めた。

3 5回表、1死三塁で9番古谷篤史が相手守備のエラーを誘う内野ゴロの間に伊勢一喜が好走塁で生還して待ちわびた先制点をあげる(みかわD戦) / 4 待望の先制点に沸く小坂ジュニアの保護者たち。トレードマークの黄色ポロシャツを着て大声援を送りつづけた。この声援こそが選手たちの精神的な支柱となり力の根源ともいえる(みかわD戦)



第24回全日本小学生ソフトボール大会熊本県予選会が6月12、13の両日、宇城市の当尾グラウンドで開催された。

本町から出場した小坂ジュニアソフトボールクラブ(岩野勇監督、23人)はその圧倒的な投打と抜群のチームワークで熊本の頂点まで上り詰め、史上初となる大会三連覇を飾り、全国大会への切符を手にした。町が誇るべき球児たちの優勝までの2日間に完全密着してレポートする。